

「中央値」「平均値」「標準偏差」について

統計調査は、最高値・最低値・中央値・平均値・標準偏差を示すことにより、報酬の価格帯及びばらつきを確認することができる。

中央値	統計調査で報告された報酬額の内、例えば 100 人の統計であれば報酬額の高い順に 50 人目と 51 人目の報酬額の平均報酬額。99 人であれば 50 人目の報酬額に当たる。
平均値	<p>統計調査で報告された報酬額の平均値。 平均値は通常 μ (ミュー) と表示される。 一般に平均値には、</p> <p>単純平均 $\frac{X_1 + X_2 + \dots + X_n}{n}$ (X_i ($i = 1, 2, 3 \dots n$) : 各データ、n : データ数)</p> <p>が多く使われている。</p>
標準偏差	<p>統計調査で報告された報酬額のばらつきを確認する数値。 標準偏差はデータの分布の広がり幅(ばらつき)をみる一つの尺度である。</p>

正規分布表について

平均値と標準偏差の値が分かれば、データがどの範囲にどのような割合で散らばっているか(分布)がある程度明らかになる。

図(正規分布表)のような平均値 μ を中心に左右対称の釣り鐘型の分布(正規分布)では、平均値 (μ) と標準偏差 (σ) 及び度数の間に次の関係が成り立っている。

これは平均値 \pm 標準偏差の範囲に全データの 68.27%が、 \pm 標準偏差の 2 倍の範囲内に全データの 95.45%が分布するという意味である。

範囲	その中に入るデータの割合
$\mu \pm \sigma$	0.6827 (約 2/3)
$\mu \pm 2\sigma$	0.9545 (約 19/20)
$\mu \pm 3\sigma$	0.9973

